

福祉 ちば

No.142 2008.7.15 発行



「人の役に立ち、自分も成長したい」
— 介護職目指し、Let's Challenge! —



地域の福祉、
みんなで参加

赤い羽根
共同募金

「ハイ、そこで腰を落として、テコの原理を使って。利用者さんへの声かけも忘れないで」「いいよ、それでOK!」。先生の励ましの言葉に乗せられて、利用者の体位変換の演習に取り組む生徒たち。ときには、利用者を演じる生徒から介護役の生徒に「もっと体を接近させないと…」などアドバイスが飛んで、教室が爆笑に包まれたり——。

これは、介護職を目指し、「成田国際福祉専門学校・介護福祉士科」で学ぶ一年生の演習の一コマです。

近年、介護の人材不足が深刻さを増していますが、「人の役に立ちたい。そして自らも人間として成長を——」という熱い志を胸に、ひたむきにチャレンジを続ける青春群像。二年後には、介護福祉士として社会の第一線に巣立っていきます。



編集・発行 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
〒260-8508 千葉市中央区千葉港 4 番 3 号 TEL.043-245-1101 FAX.043-244-5201 <http://www.chibakenshakyo.com>



この広報紙は、一部共同募金の
配分金によって発行しています。



介護の仕事の〈楽しさ〉や〈やりがい〉を語り合い、その担い手として若い世代の参加を呼びかける『介護の魅力語る千葉県フォーラム』(千葉県社会福祉協議会ほか主催)が、5月10日に京葉銀行文化プラザで開かれました。会場には、県内各地の高等学校の進路指導担当の先生方をはじめ、福祉系養成校の教職員や生徒・学生、社会福祉施設関係者など約630名が大集合。これからの介護のあり方を学びつつ、福祉施設スタッフの現場からの〈生の声〉に耳を傾けました。



早川恒雄会長 堂本暁子知事 田島誠一教授

介護の魅力語る千葉県フォーラムを開催

利用者、家族、介護者の〈笑顔〉が素敵!!

〈介護〉は30年間伸び続ける成長産業

冒頭、主催者を代表して千葉県社会福祉協議会の早川恒雄会長が、「高齢社会を支える大きな役割を担っている介護・福祉サービスの仕事が、魅力ある職業として認められ、介護の明日を支える〈マンパワー〉対策の起爆剤となることを願ってやみません」と力強く語りました。また、来賓の堂本暁子千葉県知事は、「人と人がふれあう宝物のような瞬間を積み重ね、やりがいを感じながら、自らも豊かになれる介護職を選ぶ道も素晴らしいことと思う」と若い世代にエールを送りました。

続いて、日本社会事業大学専門職大学院の田島誠一教授が『これからの介護の展望』と題して基調講演。その中で田島教授は「平成2年の社会福祉事業法改正が福祉の歴史を大きく変

えた。現在の福祉は、①国民の権利として位置づけられ ②社会の一員としてあらゆる分野の活動に参加するチャンスが与えられ ③サービスを必要とする人の状況に応じて ④住み慣れた地域で ⑤必要な福祉サービスが総合的に提供される。その仕組みも〈措置〉から保険制度による〈契約〉に変わった」とした上で、「介護の仕事は介護を必要とする人と支える人が共に生きていることを実感できる魅力的な仕事で、難しいがやりがいがあり、人や人生について深く考えることもできる。福祉の分野では、取扱量が年間7~8%増え、これから30年間は伸び続ける成長産業でもある」と強調しました。

この後、福祉分野の最前線で活躍しているパネリストを迎えてのシンポジウムを開催。それぞれの経験を通じて実感したやりがいや介護職の魅力について、語り合いました。

*今回の〈フォーラム〉の企画にあたり、中心的な役割を果たされたお2人にコメントを寄せていただきました。

風評被害に負けず、介護の道を——

■佐藤隆志・千葉県介護福祉養成校連絡協議会委員長

介護職を目指す学生が、ここ数年極端に減っている。それはマスコミ報道による〈厳しい労働〉〈低賃金〉等のマイナスイメージが広がった為で、これは明らかに〈風評被害〉と言いたい。介護の仕事は、人を相手にするだけに苦労は多いものの、心の通い合う喜びや達成感に満ちた世界。高校の進路指導で、担当教員が介護職を敬遠するなどは、明らかな誤解に基づくものだ。

このフォーラムは、介護職養成校、福祉施設、団体、県、社協が結束して実施する初めてのイベント。講演、ディスカッションを通じて、介護職は今後さらに社会の脚光を浴び、自らの人間的な成長にも役立つ職業であることを知って欲しい。

“やりがい・生きがい”の実感できる仕事

■湯川智美・千葉県高齢者福祉施設協会副会長

近年、介護職員の退職を理由に人員が確保できず、ショートステイや短期入所をやめざるを得ない施設が増えている。

こうした危機感から、1年ほど前より福祉施設の中から「介護職の養成にあたっては学校も含めて、関係者が交流する機会を——」という声が上がリ、今回の〈フォーラム〉を企画させてもらった。

介護職は、確かに楽な仕事とはいえないが、“やりがい・生きがい”を実感できる魅力ある職業。若い世代の方々には〈フォーラム〉を通じてぜひその点を理解し、介護職の道を志していただければ——と切に願っている。



海保雅江氏 山田聡一氏 広岡成子氏 山本英清氏 高田恵美 佐藤俊一氏

シンポジウム
(発言要旨)

出会い、発見、感動、学びetc

~その魅力とやりがい~

【シンポジスト】(発言順)

■特別養護老人ホームセイワ若松 生活相談員	海保雅江氏
■特別養護老人ホームプレーグ本笠 介護副主任	山田聡一氏
■認知症のひとと家族の会千葉県支部 副代表	広岡成子氏
■千葉県介護福祉士養成校連絡協議会(成田国際福祉専門学校介護福祉士科 教務主任)	山本英清氏
千葉県介護福祉士会会長	高田恵美
■千葉県社会福祉協議会福祉人材センター 主査	高田恵美
【コーディネーター】	
■淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科教授	佐藤俊一氏

〈生きること〉の意味を実感!!

佐藤 これまであまり語られることの少なかった介護の仕事の魅力について、まず存分に発信していただきたいと思っています。

海保 介護の仕事を始め16年になりますが、その楽しさを知ったのは最近です。車いすの利用者を交え、男性4人が食堂に置くテレビを買いに行った時のこと。今までとても気難しかった利用者が、人が変わったような表情で価格を値切った手柄を楽しそうに話すのです。それからは、新聞や折り込み広告に熱心に目を通すようになり、今度はテレビを載せるサイドボードを買いに行くことを楽しみにしています。心が動けば、暮らし方も変わる。〈生きること〉を目の当たりにした思いでした。

山田 現場では、毎日新しい発見があります。職場の仲間が軽度の認知症の利用者と東京ディズニーランドへ行った時、いつも無愛想だった利用者がとても楽しそうに笑っていた——というのです。施設に戻ってから笑顔が増え、人当たりがやわらかくなりました。

多くの出会いが私の財産

広岡 アルツハイマーの義母を約10年在宅で介護し、7年前に看取りました。在宅介護には随分と悩んだ時期もありましたが、工夫を重ね、本人に笑顔や落ち着きが戻ったことが〈喜び〉になりました。義母の徘徊などで困惑している時も、施設の方が「自分で抱え込まずに、私たちに預けてみたら」と声をかけてくださりました。地域の方、介護や医療関係の方など、多くの出会いが私の財産です。

“家族の会”に寄せられた手紙には、介護サービス利用者の家族の気持ちが綴られています。「施設の職員の方々にはとても感謝していますが、ヒゲ剃りなどちょっとしたことが忘れられてしまう」という声もありますが、こうした

問題は伝言ノートなどを上手に利用することで、解決できます。利用者の笑顔、取り巻く家族の笑顔で〈倍の喜び〉を得られるのが、介護の仕事だと思っています。

海保 伝言ノートも一案ですね。家族の方たちとは、利用者の暮らしを支えていく仲間。何より協力し合っていくことが大切です。

人との関わりが自分を磨く

山本 昭和56年から介護の仕事をしてこられたのは、周囲の方からたくさんの感動をもらったからです。

SMAPと高齢者が、一緒にラグビーをしているCMがあります。何故か高齢者が圧倒的に有利に試合を進めている。「高齢になっても、自分のやりたいことはできる」というメッセージと受け止めています。ただし、障害者や高齢者が輝くには、様々な思いに寄り添い、支えてくれる存在が必要です。介護の仕事は、言葉だけでは通じない世界であり、全力で取り組まなければならない職場。意欲のある人にとっては、まさに自分の力が発揮できる職場です。これが介護の仕事の可能性であり、魅力です。

山田 中学生の時、祖母が入所していた老人ホームの職員の方々への感謝の気持ちから、この仕事を選びました。介護は、人の手を介する温かみがあり、自分を成長させてくれる仕事。利用者の笑顔や「ありがとう」の言葉に励まされ、利用者の喜びが家族の喜び、そして自分の喜びになるよう目指すことが、自分を成長させてくれます。

広岡 声なき声を拾い上げることのできる感性を持った施設や人であって欲しいですね。

佐藤 まず、介護する人が〈人を信頼し、愛する〉ようになることが、最大の魅力だと思います。続いて高田さんには、これまでとは違った視点からの魅力をお願いします。

高田 福祉人材センターは、厚生労働大臣の認可を受け、福祉関係専門の無料職業紹介を行っている〈福祉版ハローワーク〉といった存在です。介護保険のスタートで、福祉の仕事を取り巻く状況も激変しました。雇用が拡大し、求人も増え、現在は人材が不足しています。優れた人材を安定的に確保する制度づくりや、女性がより働きやすい職場環境づくりが必要です。施設内保育所、育児休暇の取得率アップなどに取り組んでいきたいと考えています。21世紀の高齢社会に、介護職はなくてはならない存在です。

佐藤 人と人との関わりの中で、自分を磨けるのが介護の仕事。仕事を通して魅力的な人が生まれ、その魅力を社会に訴えていく——今日をその始まりとしたいですね。



佐藤英美所長（受付にて）

キーワードは「地域のことは地域で解決」

松戸市社協ボランティアセンターの主な仕事

- ボランティア活動に関する相談
- ボランティアの登録・紹介
- ボランティアに関する講座や研修会などの開催
- 福祉に関する情報の提供
- ボランティア室などの貸出し
- 福祉図書（貸出し・閲覧）
- 福祉機器（車いす、高齢者疑似体験用具など）の貸出し
- ボランティア活動に関する保険への加入受付



〈ボランティアセンター〉は、その名のとおりボランティア活動をしたい人、している人、ボランティアの協力を依頼する人を対象とした中心拠点であり、社会福祉協議会を〈港〉とするなら、センターは〈灯台〉ともいべき存在。地域福祉の最前線で活動するボランティアを支援するとともに、地域で悩んでいる人、現実困っている人に〈光〉を贈る役割を果たしています。今号からスタートした「私のまちのボランティアセンター」では、松戸市社会福祉協議会のボランティアセンターを訪ね、地域福祉実現への取り組みなどをお聞きしました。

■15地区社協が最前線で活躍

首都圏に隣接した〈生活都市〉として発展を遂げてきた松戸市。都市化・人口増に伴って福祉ニーズも多様化し、ケースバイケースのきめ細かな対応が求められています。

その地域福祉を担っているのが社会福祉協議会であり、「ボランティアセンター」はこれに所属する一機関。〈ボランティアをしたい人〉と〈ボランティアに来て欲しい人〉のマッチングや悩みごと相談をはじめ、ボランティアに関する講座や研修会の開催、ボランティアグループの組織づくりのお手伝い、福祉機器の貸出し、福祉情報の提供などを行っています。

また、松戸市社協には15の地区社協が組織されていて、その多くが県の「地域福祉フォーラム」の認定を受け、地域福祉の最前線で取り組みを進めていることから、センターとしてもこの地区社協と緊密に連携して、住民と一体となった地域福祉の実現に努めているところです。

■ベテラン揃い、3名のコーディネーター

ボランティアセンターに常駐して、「何か人の役に立ちたい」という人と、「ボランティアの力を借りたい人」の相談に応じて活躍しているのがボランティアコーディネーターで、現在3名います。特に資格を持っているわけではありませんが、いずれもボランティア活動に長く携わってきた

ベテラン揃い。訪れた人々の希望に文字どおり親身になって耳を傾け、双方が満足するようなコーディネート業務を心掛けています。

近年のボランティア派遣要請には「介護保険の適用外になってしまった高齢者の話し相手をしてもらえないか?」「介護保険の対象とならない、通院時の院内の介助をして欲しい」など、介護保険に絡んだものが増えているということです。

これまでのコーディネーターとしての仕事を振り返って、3名のコーディネーターから思い出や感想を寄せてもらいました。

■人間として成長させてもらった

☆Aさん = 長い間のボランティア活動で、多くの市民のみなさんにお会いして、その考えが10人10色であり、コーディネーターはケースバイケースのきめ細かなアドバイスが大切であることを痛感。それがまた私を人間として成長



打ち合わせをするコーディネーター

させてくれたと思っています。

■あのか、何かできなかったのか!

☆Bさん = ADHD（多動性障害）のお子さんの登下校時の見守りを相談されたことがあるのですが、適切なボランティアさんが見つからず良い返事ができませんでした。するとそのお母さんは落胆の表情を浮かべて帰って行かれました。今でもそれを思い出して、「あのか、最後の頼みの綱と思って来ただろうに、本当になんとかしてやれなかったのか、何かできたのではないか」と胸が痛みます。

■2年後に登録を決めた人

☆Cさん = ボランティアはしたいが、個人登録するのはイヤ——という引きこもり傾向にある若い女性から相談があり、その気持ちを汲んで、ボランティア団体に紹介しました。2年後に「活動の場を広めたい」「働こうと思います。」と笑顔で来所され、ボランティア活動が社会復帰の一助になったことに感動を覚えました。

相談、マッチング体制の充実を

■佐藤英美・ボランティアセンター所長の話 = 福祉は今、地域のことは地域で解決する時代。松戸市においても、都市化、人口増とともに福祉ニーズは多様化しており、ボランティアセンターとしても、またコーディネーターの役割もますます重要になってきたと感じています。今後も、〈地域の支え合い〉を合い言葉に、ボランティア活動をめぐる相談やマッチング体制の充実強化を進めていく方針です。

●「いのちの授業」の松田洋子代表

子供たちに、やさしい心のプレゼント

子供たちを取り巻く性犯罪、硫化水素や練炭を使った自殺…。今、「いのち」に係る問題が尽きない中で、助産業務を営む傍ら、船橋市内の小中学校で性教育講座を展開している「いのちの授業」の松田洋子代表——。地域で教職員やボランティアと連携しながら、子供たちに生きることの素晴らしさを訴える活動を続けています。その熱い思いを語っていただきました。



松田洋子代表

突然の依頼

性教育講座「いのちの授業」を始めて、今年で10年目になるうとしています。

助産業務を営む傍ら、ある日突然、性教育授業を依頼され、1週間で作成した手づくりの教材の数々。いま手にとって、当時夢中になって取り組んだことが思い起こされる教材です。

購入した教材は、語句や説明用語まで付いていますが、本当に子供たちに伝えたい言葉や内容はどこにもありませんでした。ど

んなに見栄えが悪い教材でも、子供たちを目の前に、「恥ずかしいことは何もない」という思いで自ら教材をつくり、活動を始めました。

無駄な命は1つもない

現在は月に4~5回ほど、妊婦さん、そして産後間もない赤ちゃんとお母さんにも協力してもらい、船橋市内の小中学校で子供たちと触れ合いながら、授業を行っています。

授業では、胎児や赤ちゃんを写真や模型を使って説明したり、妊婦さんのお腹から赤ちゃんの心臓の音を聞いたり、ベビーモデルを使って赤ちゃんを抱かせてみたりして、子供たちがより現実的に体験できるように心がけています。

子供を産んだ両親のエピソードなども紹介し、「無駄な命は1つもない、みんな選ばれ、大切に守られてきた命」であることを話し、自らの命を大切にすることを伝えています。

昨年は、教材の充実を図るために、福祉医療機構の助成事業の応募に挑戦して採択されました。ビデオカメラなどが購入できたため、記録を鮮明に残すことができるようになり、丁寧に活動を振り返ることで、次の活動がより効果的に展開できるようになりました。

子供たちに命の大切さを——

現在、インターネットなどを通して、子供たちに有害な情報が氾濫し、性犯罪の低年齢化や10代の堕胎問題、援助交際、若者による集団自殺など、命に係る問題がますます注目されています。

自殺の原因も、「面白くないから」「人生に目的が持てない」など、希望が持てない社会に対し、人生を見限るような内容のものが増えています。

今までの活動やこのような現状を通して、私たちは反省すべき点をたくさん見出しました。10代の少年少女たちが、生きることの素晴らしさの意味を見出せず、生きることに不信感を抱いたりしていることを見通してしまいました。そして、今後は、さらにより多くの子供たちに、命の大切さを伝えなければ——と思っています。

私たちの活動が、子供たちにとって〈やさしい心のプレゼント〉になってもらいたい。また、活動のなかで「自分を大切にしよう。親に感謝しよう。友だちを大切にしよう」という心が芽生えることを願ってやみません。



福祉施設、事業所で働きたい方へ

参加無料

●第2回就職フェア

■開催日時／9月27日(土) 13:00～16:00
受付 12:30～

■場所／幕張メッセ国際会議場

平成21年4月から、福祉施設や事業所に就職希望している方を中心に、求人のある事業所と個別に直接面談できます。就職にあたっての詳細な説明や施設見学等の予約ができますので、ぜひご参加ください。

また当日は、福祉人材センターへの求職登録や、専門家による各種相談も受け付けています。

福祉のしごとエリア面談会

参加無料

〈第1回〉(山武地域)

■開催日時／10月18日(土) 13:00～16:00
受付 12:30～

■場所／東金市保健福祉センター(ふれあいセンター)

山武地域及び周辺地域にある福祉施設・事業所に就職を希望する方が、求人側と個別に面談できる会です。

求人内容の詳細について直接説明が受けられます。また当日は、福祉人材センターへの求職者登録・相談もできます。

〈第2回〉(東葛飾地域)

■開催日時／11月1日(土) 13:00～16:00
受付 12:30～

■場所／市川市勤労福祉センター本館3階

東葛飾地域及び周辺地域にある福祉施設・事業所に就職を希望する方が、求人側と個別に面談できる会です。

求人内容の詳細について直接説明が受けられます。また当日は、福祉人材センターへの求職者登録・相談もできます。

福祉人材センター

メールマガジンを開始!!

2008年4月より、千葉県福祉人材センターメールマガジンを配信しています。メルマガに登録すると、人材センターのイベント情報や求人急募情報、新着情報が届きます。

配信は月2回を予定しており、パソコンと携帯電話どちらからでも受信できます。メルマガは登録無料ですが、パケット代(通信料)は登録者のご負担となります。ぜひ、お申し込みください。〈メルマガお申込方法〉

■パソコンから <http://www.12fukushijinzei.or.jp>

■携帯電話から 携帯用QRコード



厚生労働省委託事業

子育て緊急サポートネットワーク事業 〈ちばっ子ネット〉会員募集中!

病気回復期にあって保育園等に行けない子どもの預かりや、緊急度の高い保育園等への子どもの迎えや預かり、急な残業・出張等の宿泊を含む子どもの預かりなど、子どもに係る臨時的・突発的なニーズに対応する、仕事と育児の両立支援を目的とした会員相互の援助活動です。



☆会員の条件

※利用会員・スタッフ会員ともに事前登録が必要です。

◆利用会員：子育てしながら働いている方。

(求職中の方も登録可能)

※子どもの年齢は、概ね1歳～小学6年生までです。

◆スタッフ会員：子育てに関する基礎的な知識と理解のある方、あるいは保育士・看護師・保健師等の資格のある方。

※本会が実施する研修の受講が必要となります。

☆事業に関する問い合わせは・・・

子育て緊急サポート(ちばっ子ネット)事務局

(社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会)

TEL: 043-245-1271

☆浦安市、市川市(行徳地域)で

会員登録を希望される方は・・・

ちばっ子ネット 浦安・行徳事務局

(特定非営利活動法人 i-net(アイネット))

TEL: 047-350-8619

FAX: 047-350-8617

Mail: support@npo-i.net

ホームページ: <http://support.npo-i.net>



☆流山市で会員登録を希望される方は・・・

ちばっ子ネット 流山事務局

(特定非営利活動法人 流山ユー・アイネット)

TEL・FAX: 04-7156-1766

ホームページ: <http://www.npo-support.jp/ui/>



高齢者の仲間づくりに――

シニアサークルデータベースの活用を!

千葉県社会福祉協議会では、高齢者の仲間づくり支援事業の一環として、県内のシニアサークルの実態調査を行い、新規サークルの創設や既存サークルへの入会を希望される方へ、活動情報等をインターネットで情報提供しています。積極的にご活用いただきたくご案内いたします。



シニアサークルデータベースHP <http://senior-circle.jp/>

〈ありがとうメッセージ〉が届きました

●千葉県共同募金会

昨年、ご協力をいただいた「赤い羽根共同募金」を助成した地域福祉活動を推進する機関・団体から、次のような感謝の声が届いています。



介護の実習、料理づくり、旅行・・・



在宅介護者支援

「陽だまりの会」では、在宅で介護を行っている方を対象に、介護や調理の勉強会、日帰り旅行や交流会を月に1回行っています。

介護の悩みを介護者一人で抱え込まず、皆と一緒に元気になる場です。

共同募金の温もりが、介護者にも、介護されている方にも伝わり、笑顔となりました。ありがとうございました。

(社会福祉法人 成田市社会福祉協議会)

心と体で音楽を満喫



愉快的コンサート

子供達に〈音と遊びの世界〉を伝える音楽集団・ロバの音楽座を招き、子供から大人まで満員の会場で、「愉快的コンサート」を楽しみました。

新聞紙など身近なものを使った楽器から、古楽器までいろいろと登場し、心と体で感じることでできる音をみんな一緒に体験し、大変盛り上がりました。

共同募金のおかげで、子供達がのびのびと音楽を楽しむよい体験ができました。

(NPO法人 子ども一ぶ袖ケ浦)

お気軽にご相談ください

●社会福祉施設経営相談

福祉施設運営に係る法律、会計・税務、労務などについての相談に応じています。相談時間は月～金曜日の9:00～17:00(祝日・年末年始は除く)。併せて、下記のとおり専門家による相談も実施していますので、積極的にご利用ください。

	会計・税務等相談	労務・職員待遇等相談	法律相談
7月	22日(火)	16日(水)	23日(水)
8月	4日(月)・18日(月)	6日(水)・20日(水)	12日(火)・27日(水)
9月	1日(月)・16日(火)	3日(水)・17日(水)	10日(水)・24日(水)
10月	6日(月)・20日(月)	1日(水)・15日(水)	8日(水)・22日(水)

※10:00～正午(電話予約可)

〈千葉県社会福祉施設経営相談室〉 直通電話 043-245-4450

不在のときは 043-245-1104

平成19年度 千葉県社協一般会計資金収支決算状況についてお知らせします。

収入の部<決算額(円)>

会費・寄附金収入	32,935,863
県補助金収入	224,341,881
助成金収入	23,617,600
受託金収入	106,912,699
事業収入	194,502,412
償還金収入	97,925,700
共同募金配分金収入	9,210,000
負担金収入	16,455,666
会計・経理区分間繰入金収入	61,393,480
その他の収入	26,392,100

合 計 793,687,401

支出の部<決算額(円)>

人件費支出	280,783,604
事務費支出	29,619,325
事業費支出	194,385,071
貸付金支出	155,000,000
助成金支出	49,256,536
負担金・分担金支出	3,574,515
会計・経理区分間繰入金支出	58,171,170

合 計 770,790,221

平成19年度「収支決算状況」及び「事業報告」については、千葉県社会福祉協議会 総務部 総務班へ直接お問い合わせ下さい。また、当会ホームページにも掲載しております。

■お問合せ先／千葉県社会福祉協議会 総務部 総務班
TEL. 043-245-1101



生活福祉資金を ご存じですか?

みなさん、「生活福祉資金」をご存じですか?

社会福祉協議会では民生委員と連携して、比較的所得が少ない世帯・障害者の世帯・高齢者の世帯に対して「生活福祉資金」の貸付をおこなっています。

【資金種類(例)】出産費、葬祭費、転宅費、福祉用具購入費、障害者のための自動車購入費、住宅の増改築または改修のための資金、高校・大学・専門学校等の学費および入学の際の支度費、療養費、介護等費、被災した際の再建資金、技能習得のための資金、緊急小口資金、離職者支援資金、長期生活支援資金等

※貸付条件(貸付対象、貸付限度額、返済期間、利子、連帯保証人の有無等)は資金種類ごとに異なります。※貸付制度ですので返済の義務があります。なお、貸付審査の結果貸付に至らない場合もあります。

資金についての相談窓口／お住まいの市区町村社会福祉協議会または民生委員へご相談ください。
千葉県社会福祉協議会 ☎043-245-1551



路上生活者と話す 副田理事長

「元気ですか?」と路上生活者の安否確認

「こんばんは、元気ですか?」「前回来たとき風邪気味だと言っていたけど、治りましたか?」。市川市内の鉄道の高架下や公園の隅などに粗末な小屋を建てて住む路上生活者を支援するため「NPO 市川ガンバの会」(副田一朗理事長)では、名刺代わりにオニギリを持参して、安否確認の夜間パトロールを実施しています。「なまけ者!」と誤解され、放火や投石の被害に遭ったりするいわゆるホームレスですが、「好きでなった者は一人もいない。彼等なりに働いて、必死に生きている。そんな人たちにできる限りの支援を——」というのが副田理事長の信念。

生活保護の申請やアパートの入居などのお世話をしながら、一緒に自立への道を模索します。

元ホームレスも支援活動に参加

〈ガンバの会〉の夜間パトロールは、毎月2~3回行われており、当日は午後6時ごろから会のスタッフ7~8名、ボランティア約20名、さらに会のお世話でアパート暮らしができるようになった〈居宅者〉15名ほどが「ありがとう」の気持ちで応援に駆けつけ、市川八幡教会でオニギリづくりに汗を流します。

このオニギリは、飽きないようにミソやワサビのり、イリコ菜など4種類のふりかけをまぶしてあり、1人2個とタクアン2切の1パック。そのほか、協賛企業やボランティアから贈られた漬け物やクッキーなども添えられます。

パトロールは、「徒歩コース」が会の事務局に近いJR本八幡駅周辺、「市川コース」はJR市川駅周辺、「湾岸コース」は市川港・新行徳橋周辺の3コース。これらの地域には合わせて75~80名の路上生活者がいます。

「ありがとう」の聲に送られて次の場所へ

午後8時ごろ、3班に分かれた一行は、それぞれの担当地域をまわり、まず「元気ですか?」の声かけ。続いて「オニギリ持って来ましたが、いかがですか?」「お味噌汁もありますよ」「前は体調を崩されていたようですが、大丈夫で

すか?」など、一つひとつの小屋をのぞいては安否の確認。最近では、子供に石を投げられたり、自転車の空気を抜かれたり、ひどい例では放火されるなどの被害が出ており、「くれぐれも気を付けて——」と念を押し、「ありがとう」「ごちそうさま」の声を背に次の場所へ移動。パトロールは、毎回午後10時過ぎまで続けられます。

この夜間パトロールは、路上生活者を対象とした活動ですが、〈ガンバの会〉では、そのほかに「自立支援事業」として事務所に相談に来られた方の就労支援や、生活保護を受けるための申請支援、路上生活者をアパートで暮らせるようにしたり、すでにアパートに入居している人たちの生活相談、通院の付き添いをする「居宅支援事業」。更に「懇親旅行」「ガンバ農園」の開放など、路上生活者と〈居宅者〉を含め、多彩な事業に取り組んでいます。

彼等も働いて必死に生きている

■副田一朗理事長の話=ホームレスというと、すぐなまけ者というイメージで捉えられますが、それは明らかに誤解です。彼等も一生懸命仕事をして、必死に生きていることを理解して欲しい。そして自立への支援に手をさしのべていただけたら——と思います。



会のスタッフ、ボランティア、居宅者も集まってオニギリづくり



「自然の中の宿」久留里荘をご利用ください。

※永年ご愛顧頂きました久留里荘は、平成21年3月をもって廃止させていただきます。

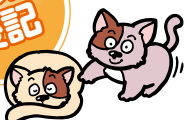
〈宿泊料〉消費税込				
利用者区分	宿泊料	食料		合計
		朝食料	夕食料	
60歳以上の方	2,920円	830円	2,070円	5,820円
一般利用の方	3,830円	870円	2,170円	6,870円
小学生	2,920円	830円	2,070円	5,820円
幼児(4歳以上)	1,460円	実費	実費	1,460円+実費
幼児(4歳未満)	無料 (布団不使用の場合)	実費	実費	実費

〈休憩料〉消費税込	
利用者区分	休憩使用料
60歳以上の方	お一人様1日 700円
一般利用者	お一人様1日 1,050円
小学生	お一人様1日 620円

久留里荘

〒292-0434 千葉県君津市向郷 1632 TEL 0439-27-3180 FAX 0439-27-2776 <http://park21.wakwak.com/~kururisui/>

編集
後記



今回、「市川ガンバの会」が実施している夜間パトロールに私たちも同行させていただきました。雨の中にも係らず、懸命にパトロールをしながら声掛けをし続け、一人ひとりのニーズに応えていこうとする皆さんの姿はまさに圧巻でした。

さて、今号からリニューアルした「福祉ちば」はいかがでしたか。千葉県ボランティア・市民活動センターが発行していた情報誌「え〜るちば」と合併し、ボランティア活動に「え〜る」を贈る「え〜るちば」のコーナーを増設しました。

編集委員一同、緩やかな地域福祉活動を応援する広報誌——を目指した誌面づくりに取り組んでいきたいと考えています。読者の皆様からのご意見・ご感想もお待ちしております!(安藤)